

県花“水仙”や郷土の味、

伝承舞踊はねそを披露



「そば街道今庄から」と銘打った南越前町会場はリトリートたくら。豊かな自然の中で、美味しい山の幸、海の幸、里の幸を楽しんでもらおうと、自慢のそばや新鮮な旬の野菜、イワナの塩焼き、イカ焼きなどをはじめ、茶飯、餅、山菜おこわなどの模擬店が用意されました。

また、町自慢の食材をふんだんに使った大鍋や、そばを使った新しい料理なども振る舞われ、特色ある食文化を披露。訪れた人達に、郷土の味を伝えました。

料理実演・そばの新しい魅力発見!

イタリアンシェフ片岡護さんが、和の食材の地場産そば粉をパスタに仕立て、魚貝類をソースに使用して混ぜ合わせたイタリア料理を実演、そばをパスタ料理として振舞いました。

山海まつり 10月30日(日)



イノシシ肉や野菜などをふんだんに使った味噌仕立てのしし鍋や、カニやイカなどコチュジャンで味付けした海鮮鍋などの山海鍋はとも美味しく、新鮮な素材を使った郷土の味が来場者に振舞われました。



また、山海料理コンテストそば部門の最優秀作品「そばがゆ」も来場者に振舞われ、そばの新しい料理に舌鼓を打っていました。

10月22日から11月3日まで開催された「第20回国民文化祭・ふくい2005」南越前町では、花を組む心の風景「華フェスティバル・水仙」、福井の食文化をテーマにした「越前・若狭食の祭典・山海里まつり」、先祖への感謝を唄う踊る引き継いでゆく「民謡民舞の祭典・はねそ」の3つのイベントが行われ、それぞれ地域に根ざした文化が趣向を凝らして披露されました。

オープニング
フェスティバル
10月22日(土)



祝いの席では必ず歌われてきました。このような晴れ舞台で披露することができ、大変感激しました。(木津さん談)

交響合唱詩『ふくい物語』『糠どっさり』を披露

オープニングフェスティバル(会場：サンドーム福井)では、恐竜が生息した太古の昔から現代までの福井のあゆみを表現するステージ・交響合唱詩『ふくい物語』が上演され、第3幕で、木津巖さん・喜江さんご夫妻(糠)が福井県越前前船主の歴史を描いた民謡「糠どっさり」を朗々と歌い上げました。

華
のフェスティバル
10月29日(土)



会場は北前船をテーマとした資料館の前船主の館右近家と河野歴史資料館。

右近家中庭に、河野生け花教室が水仙や竹、野草などを素材に、立体的な形で水仙をあしらった、訪れた人たちを出迎えました。

右近家の各部屋には、県華道協会所属の6流派が、趣向を凝らした水仙の生花を展示。歴史深く落ち着いた趣の右近家と、白と黄色の可憐な姿で清らかな香りを漂わせる水仙の花がしゅくりと合い、訪れた人たちを魅了しました。



河野歴史資料館では、水墨画教室で学ぶ人や一般参加者が水仙をモチーフに描いた水墨画四十点を展示。墨の濃淡を活かし表情豊かに描かれた水仙の美しさが来場者を引きつけていました。

水仙を生けて

松浦美恵子さん
(河野生け花教室講師・甲斐城)

構想は比較的早く決まりましたが、水仙に合う草木集めに苦労しました。特に、竹は飾る場所や使い方に合わせ、長さや太さ、しなり具合を考えて山で切ってくるなど大変でしたが、訪れた方に喜んでいただけたので制作した甲斐がありました。

～先祖への感謝を唄う～

音頭取りを70年

嶋崎 文治 さん
(今庄・92歳)

青年団員だった昭和6年に踊りと唄を習い、それから約70年近く唄い続けています。「～サアヨ～ヨ～はねをかやしやれ」と始まる唄い出しで、皆が手を合わせて踊ります。ここが肝心で上手く踊り出せるようにと息を合わせて歌いだします。昔は街道を一行に踊ったもの。今回は12の唄を披露しました。若い人にもずっと引き継いでいきたいものです。

▶今庄羽根曾踊り
ゆっくりとしたテンポが独特の雰囲気をかもし出し、情緒豊かな踊りとして有名。県指定の無形民俗文化財。



～踊る～

◀今庄地区の子ども達12人と大人3人が交じっての羽根曾踊り。子ども達は大人よりも少し速いテンポで踊りを披露。

今庄羽根曾踊り



今庄羽根曾保存会長
赤澤 貞夫さん(今庄)

今庄羽根曾は、今から約千年余り前の延喜年間、醍醐天皇の頃現在の藤倉山の中腹にあった藤勝寺で、仏前で舞われた稚児の舞が始まり。やがて、今庄が北国街道の宿場町となり、その頃からこの踊りが盆踊りとして踊られるようになりました。武士あり、旅の僧あり、町人や女中、百姓姿ありと様々な色とりどりの姿で踊る光景は街道宿場町ならではの風情をかもしています。現在保存会員は42人。音頭取り(付け手を含む)に合せて、袖に鈴をつけた踊り手が踊ります。歌詞は32あり全部踊ると1時間以上。夏の盆踊り大会では保存会員も見ている人達も輪になって踊ります。昨年は文化祭で踊りたいと今庄中学校からの要望で教えに行ったこともあり、自慢の踊りが受け継がれることは嬉しい限りです。

上野はねそ踊り



上野はねそ保存会長
澤本 武範さん(上野)

上野地区は千石谷山の麓。上野集落において伝承されている盆踊りは十五を数える中、上野はねそ踊りは、日々の暮らしの中で満たされない思いやほかない夢、そして行き来する男女の心情などを唄や踊りで表現してきたものです。はねそは穂ススキの事と言われ、踊る姿はススキの穂が北風に吹かれ揺れている様子を表現していることから、今回の舞台には上野華道奨励会が上野立華の構成を活かし、穂すすきの作品を立ててくれました。国民文化祭に向けて、6月から毎週金曜日の夜練習を重ね、南条盆踊り同好会と共演で披露。子どもたちの踊りの練習も盆踊り同好会員によって熱心に指導してもらい、次世代へのはねそ踊りの継承がされたと確信しています。

▶上野はねそ踊り
ススキの穂が北風に吹かれて揺れている様子を踊りで表現。月やススキの絵が描かれた浴衣姿に笠をかぶり、秋の雰囲気演出。



～引き継いでゆく～

▶上野地区の子ども達を中心に、23人が児童館に集まって盆踊り同好会の方々を講師に練習を重ねて披露。

個性豊かに伝統の舞
古くから唄い、踊り継がれてきた伝統舞踊「はねそ」をテーマに開催され、県内では当

民謡・民舞の祭典 はねそ

10月30日(日)

町の上野はねそ踊りと今庄羽根曾踊り、県外からは芦屋町はねそ保存会正津ヶ浜部会(福岡県など)5団体が出演、それぞれ受け継いできた「はねそ」を個性豊かに踊り上げました。また、3部では、南条の郷土芸能龍神太鼓や、子ども達による「はねそ」踊りなどが披露されました。



◀「南条ヤッシャカ音頭」を民謡クラブ、南条地区婦人会員が総踊り



▼龍神太鼓



▶特別ゲスト金沢明子さん
朗らかでハリのある歌声を披露。

▶躍動感溢れる南条中学校和太鼓クラブ12名が「酔妃の舞」を披露。

